

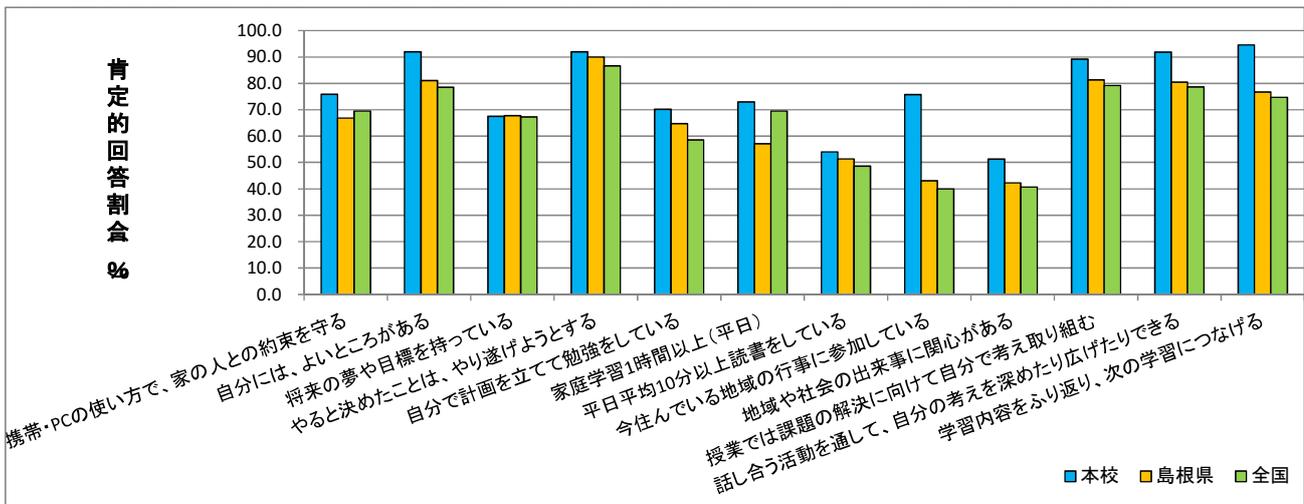
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
国語	○ほとんどの観点で県並びに全国の平均を上回っている。 ○言葉の使い方や話すこと、聞くことの正答率が高い。 ●情報の扱い方や書くことの正答率がやや低い。	・資料やデータを読み取り、文章にまとめる問題に取り組ませる。 ・自分の考えを意見としてまとめる問題を繰り返し取り組ませる。
数学	○全体的に県平均を上回っているが、全国より低い箇所がある。 ○関数、データの活用の領域で正答率が高いところがある。 ●図形領域に対する基礎知識や思考力に課題が見られる。 ●筋道を立てて説明する問題に無回答が見られる。	・基礎・基本の定着(前時の復習、小テスト、ペア学習、個別指導)を図る。 ・記述問題が苦手な生徒が多いので、普段の授業において自分の考えをもつことや、それをペアやグループで説明できるような場面をつくる。
理科	○平均正答率は全国より約4ポイント高い。 ○理科の学習内容と身のまわりの現象を関連させて考えることができる生徒が多い。 ●グラフの読み取りや、そこから考えられることなどを考察することに課題がある。	・実験・観察データを多くとり、各自が処理できるようにする。 ・実験・観察の考察する場合、各自が考える時間の確保及びグループでの話し合い活動を多く取り入れていく。 ・レポートに考察や主体的に取り組んだことなどを記入する欄を設け、各自が発展的に考えることができる機会を設ける。

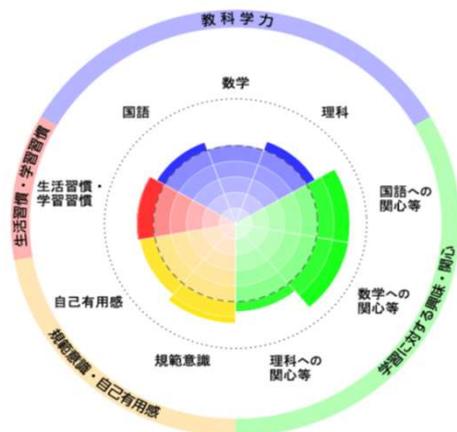
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
質問紙	○ほぼ全ての項目において全国と比べて肯定的回答の割合が高い。地域への行事の参加率は特に高い。 ○携帯・PCの使い方については昨年より改善している。 ●地域や社会の出来事への関心が50%程度に収まっている。	・折に触れて社会の出来事について話題とする。 ・社会科の中で新聞記事を扱うなど、学習内容と実際の世の中との動きをリンクさせていく。将来の主権者としての意識を高める授業を工夫する。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・各教科で自分の考えをまとめ伝える場面を設定し、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりに力を入れる。
・ICT機器の有効活用を工夫する。

【受検者数】

37 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。